

## シンポジウム1

### 歯科衛生士教育における口腔機能検査

森下 志穂

明海大学保健医療学部口腔保健学科



#### <略歴>

- 2002年 三河歯科衛生専門学校卒業
- 2002年 あさひな歯科
- 2010年 豊橋市こども発達センター
- 2011年 国立長寿医療研究センター研究所
- 2014年 日本福祉大学経営学部医療・福祉マネジメント学科卒業
- 2015年 名古屋医健スポーツ専門学校
- 2016年 東京都健康長寿医療センター（現在に至る）
- 2020年 明海大学保健医療学部口腔保健学科（現在に至る）
- 2021年 新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔生命福祉学専攻博士後期課程修了  
（口腔保健福祉学）
- 2022年 浦安市障がい者等歯科診療所ひだまり歯科室（現在に至る）

日本障害者歯科学会認定歯科衛生士

日本老年歯科医学会認定歯科衛生士

## 抄録

超高齢社会を迎えたわが国の歯科衛生士は、歯科診療所での歯科診療補助や歯科予防処置業務に加え、高齢者や入院患者の口腔健康管理の担い手であり、歯科だけでなく医科・介護分野と協働した、医療・保健・福祉の場で専門性が求められている。また、高齢者だけでなく乳幼児や学童も含むすべてのライフステージにおいて口腔機能管理を行うことで、生涯にわたり口腔の健康を保持していくことになるため、小児期から口腔機能を育成することが非常に重要である。

2024年診療報酬改定では、口腔機能低下への対応の充実やライフステージに応じた口腔機能管理が推進されており、2018年4月に保険導入された口腔機能低下症は、歯科口腔リハビリテーション料3が新設され、それとともに、歯科衛生士が口腔機能に係る指導を行った場合の評価も新設された。

このような社会のニーズにともない、歯科衛生士の口腔機能管理に関する教育の重要性は高まり、各養成校で口腔機能管理に関する教育プログラムが実施されている。歯科衛生士国家試験出題基準が2022年に改訂され、時代の要請に応える歯科衛生士を確保する観点から、口腔機能の維持・向上や摂食機能障害への対応に関する出題についてさらなる充実を図り、資質向上を促進していく旨が記載された。それに伴い、歯科衛生学教育コア・カリキュラムー教育内容ガイドラインーも改訂された。

本学では、このような時代背景と教育情勢を見越したカリキュラムを立案し実施している。今回は、本学での教育プログラムや官学連携、学園祭での地域住民への口腔機能に関する啓発活動について紹介する。

## 引用文献

- 1) 金澤紀子：歯科衛生士の展望と課題ー医療・介護との連携を目指してー. 日補綴会誌, 6, 267-272, 2014.
- 2) 薄井由枝, 三浦浩子, 玉置 洋：超高齢社会における歯科口腔保健の今後のニーズと課題に関する歯科有識者への意識調査. 老年歯学, 28, 304-309, 2013.